

決算質疑



3名が 平成16年度決算を問う

阿南澄男 議員

問 16年度決算報告によると、医業収益が31億5,927万円、医業費用が36億9,367万円となっており実質収支は5億3,440万円の赤字となっておりますが17年度は入院・外来患者が4月以降月を追うごとに減少し、直近の8月では入院患者が昨年の8月に対して73%、外来患者は66%と大きく減少となっております。

このような状況で来年の3月まで推移していくと、いかにどの欠損が予想されるのか

答 医師不足の中で17年度も患者数が減少してきております。先月の8月の診療収支で試算をみますと入院・外来の合計では昨年度は2億6,016万1千円に對しまして、本年度は、1億7,752万9千円となり8,263万2千円の減少で、平成17年度末には病院会計も非常に苦しくなり、一般会計からの相当程度の赤字補てんが必要と見込まれます。

問 17年度は、どの程度の欠損が予想されるのか

答 8月の試算でいきますと1カ月に約8千万円余りの赤字で、12カ月掛けていきますと約10億円近い欠損になるわけですが、単純に今の収益だけでなく経費削減を図る中でどれだけ病院の経営努力をして、赤字が少なくなるかが現在の我々に課せられた課題であると思います。職員一同、一丸となって赤字を少なくするように努力していきたいと思えます。

水野克尚 議員



合併により御前崎市として観光行政の一年が経過しました。全国的に観光の方向性が変化しただけでは誘客が望めない社会構造となってきました。

問 観光事業について新市の観光宣伝はどのように行っているのか、その戦略は何か

答 市観光パンフレットを作成し東京、大阪、名古屋の観光案内所等へ活用している。戦略について厳しい状況であるが御前崎市観光戦略調査を基礎資料として新たな観光戦略について提案を考えている。

問 昨年来一般質問でも観光の問題は質問されています。観光パンフレットを配布しているようですが今までと同じ方法では効果は上がらない。もっと積極的な方法で望むべきではなかったか。

答 今年度は市観光協会の発足という考え方の下で進めてきた。今後双方の意見連携を保ちながら取り組みをしていきたい。

